

市事研 会報 おおさか 翔

令和3年12月22日 発行 大阪市立小中学校事務研究会 会長 小山 純大 編集 同事務局

ホームページアドレス：<http://www.y1.x312v.smilestart.ne.jp/>

今号のピックアップ

- 1～4ページ 第27回大阪市立小中学校事務研究大会報告
- 5ページ 研究大会アンケート、実行委員長より研究大会を終えて
- 6ページ 実務研修会案内、会長コラム、他団体日程、編集後記



第27回 大阪市立小中学校事務研究大会 開催



11月2日（火）アネックスパル法円坂において、第27回大阪市立小中学校事務研究大会を開催しました。

開会行事では、会長あいさつのあと、ご来賓の方々を代表して、大阪市教育委員会事務局 学校運営支援センター 所長 江野 一 様、大阪市立小学校長会 副会長 平尾 誠 様よりご祝辞をいただきました。

その後、研究部より「働き方改革から考える今後の学校事務職員のあり方」と題し、研究発表を行いました。

記念講演では、文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 藤原 文雄 様より「共同学校事務室の運営のポイント ～責任を共有し学び合う文化を作る～」と題し、ご講演いただきました。

最後に、大会実行委員長によるあいさつがあり、大会は成功裡に終わりました。

研究発表

「働き方改革から考える今後の学校事務職員のあり方」

研究部

学校における働き方改革が推進されるなか、研究部では昨年度より、働き方改革の推進に向けたかかわりを学校経営への参画の一部として捉え、学校の教育活動や管理運営活動を円滑に行うためには、教職員と学校事務職員がお互いにとって効率的で効果的な業務改善を行うことが必要であると考えました。学校事務の領域全般を視野に入れ、教育環境の整備や事務効率向上だけではなく、学校組織運営の改善などについても研究を進めてきました。今年度は学校事務職員として、学校力向上の一翼を担うために今後の学校事務職員のあり方とは何かを探求し、実践を通じて考察してきた研究成果を発表しました。



■「チームとしての学校」の中核の一端を担うために

文部科学省委託調査研究「公立小学校・中学校等教員勤務実態調査研究」では、学校組織マネジメントを十分に発揮するためには、主幹教諭・指導教諭・学校事務職員等のミドルリーダーがそれぞれのリーダーシップを発揮できるような組織運営を促進する必要があるとされています。

研究部では、この「ミドルリーダー」を、経験年数による中堅の教職員という意味ではなく、学校長と各分野のチーム（組織）をつなぐチームリーダーとしての役割、つまり、学校組織マネジメントにおける中核の一端を担う役割を果たす者を「ミドルリーダー」と定義しました。学校が抱える課題が複雑化・多様化するなか、学校事務職員が「ミドルリーダー」として的確な計画性や判断力をもって学校の企画運営に参画していくことが重要です。そして、教員の事務負担軽減やより良い教育活動に向けて必要な役割を担っていくためには、学校事務職員の資質・能力の向上を図るとともに、私たち自身の業務についても改善を図っていく必要があります。

■学校事務職員の強みや特性を活かした業務改善例

学校事務職員に集まる情報や知識、経験などを基にした課題の発見と、学校事務職員の専門的な分野である財務運営の面から業務改善に取り組み、それらの効果について考察を進めました。

「調達事務に関する業務改善」では、公会会計における電子決裁化に伴う支出起案書の廃止など、事務処理方法に変更があったことを踏まえ、調達予定内容の確認方法の見直しによる業務の効率化に取り組みました。財務担当職員である学校事務職員が積極的かつ主体的に財務運営を進めることで、リーダーシップを発揮しつつ、教員の事務負担軽減を図るとともに、業務改善を進めることができました。（研究集録には「予算執行率の可視化による組織的な予算執行」「業務システムの収受文書回覧機能を活用した業務改善」の取組も掲載しています。）

■「学校事務職員のあり方」

学校事務職員が教職員と連携協働を進めるためには、次のようなことを踏まえて取り組んでいく必要があると考えました。

- ① 学校の教育目標を理解し、学校長と教育目標達成に向けて情報を共有していくこと
- ② 実務の観点を踏まえて組織や業務の効率化、時間の確保のため、学校全体における業務改善を提案していくこと
- ③ 使命感や責任感とともに財務や総務の専門性や、さまざまな実務の観点を踏まえながら、子どもたちの豊かな学びのために最適な教育環境とは何かについて考え、改善していくこと



教育目標の達成に向けては、教職員で課題を共有し、それぞれの役割を明確にしながら学校組織の活性化を図ることが大切です。そのなかで、学校事務職員は総務・財務といった分野でミドルリーダーとしてリーダーシップを発揮することが求められます。一方で、経験年数が浅い学校事務職員がすぐにリーダーシップを発揮することは難しいと言えます。まずはフォロワーの立場で経験を積み、少しずつ学校経営へ参画していくことが、めざすべきミドルリーダーへの一歩であると言えます。

また、学校事務職員がさらに高いレベルで学校経営に参画していくためには、これまでの個々の参画から共同学校事務室といった組織で参画する形態へと転換を図っていくことも必要ではないでしょうか。学校事務職員が一つのチームとして協働し、支え合い、それぞれの立場に応じた職責を果たしていく体制を構築するなかで、教育目標の達成に向け学校経営へ参画を図っていくことが、これからの「学校事務職員のあり方」と考えます。

研究部では、子どもたちの豊かな育ちと学校教育のさらなる発展を目標に、新たな時代の学校事務のあり方を探究しながら、さらに研究を進めていきます。

記念講演

「共同学校事務室の運営のポイント ～責任を共有し学び合う文化を作る～」

文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長
藤原 文雄 様

今回の講演では、①学校事務職員の役割 ②学校事務職員による成長モデル ③学校事務の共同実施の成果を高めるポイント の三つの観点からお話いただきました。

はじめに、「学校事務職員の役割」については2017年に学校教育法が改正され、学校事務職員の職務規定が「つかさどる」に変更されたことにより、教諭と対等の専門性を有した職になりました。教諭が子どもの成長について目標を設定し、それに向けて一人ひとりの進捗状況を管理しながら計画的に教育活動を行っていることと同じように、今後は学校事務職員も常に全体を見渡しながら仕組みを作り、進捗状況を管理することが求められるようになると述べられました。

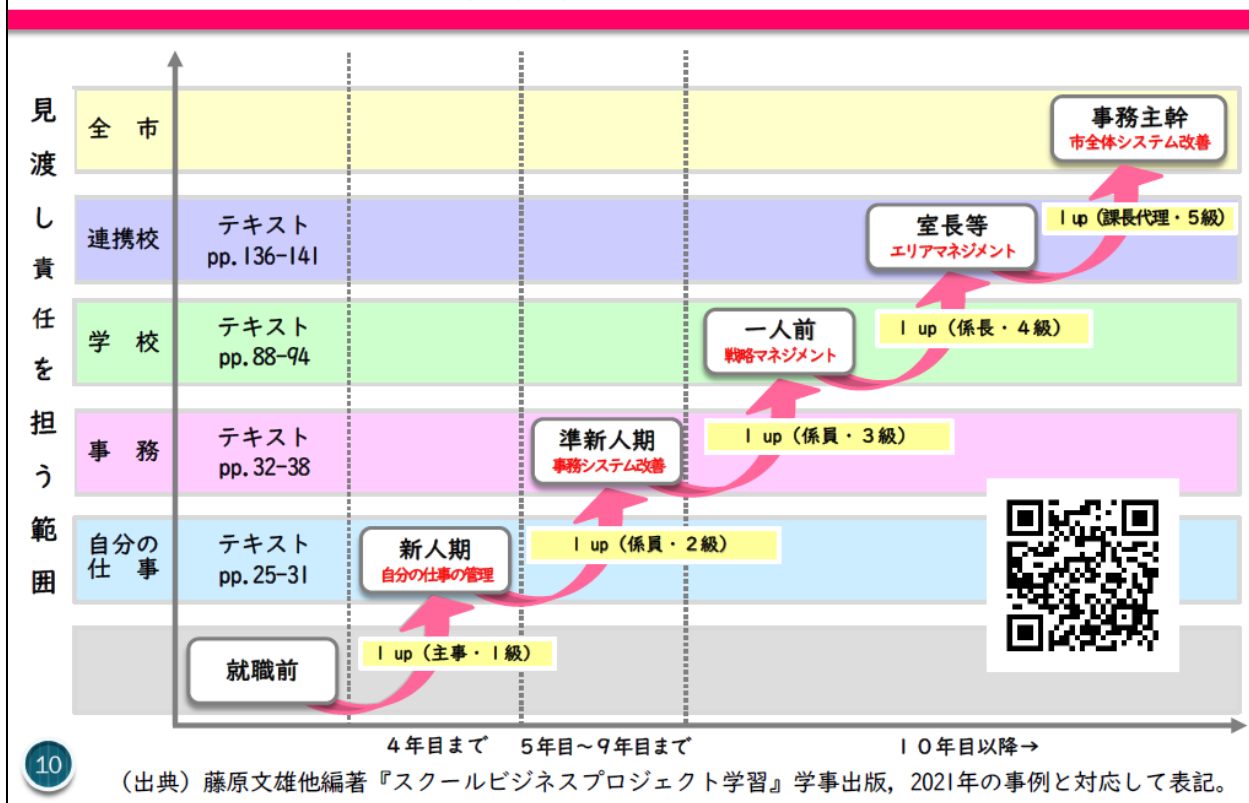
また、昨今教頭職の負担が大きくなっているなかで、施設管理等においては数年で異動となる教頭職よりも、しっかりと訓練を受けた学校事務職員が担ってマネジメントすることで、主体的に動けるような体制を作っていくことが必要です。また、学校長がエデュケーショナルなリーダーシップを発揮するのに対し、学校事務職員は行政的な目線によるビジネスリーダーシップを発揮し学校運営に参画していくことが大事であると述べられました。

次に、「学校事務職員による成長モデル」について、先ほど挙げた学校事務職員の役割を果たすためには、資金や時間、情報などの資源を管理するリソースマネジメントの能力が求められますが、そのような力を自力でつけるのは難しいため、自治体ごとに育成する仕組みを作ることが必要です。それぞれの経験年数に応じたキャリアステージを設定し、見渡す範囲と責任が徐々に広がっていくようステップアップしていくことが大切であると述べられました。

採用されて、最初の1年目から4年目にすることは、自分の仕事のマネジメントです。仕事をするうえで大事なことは成果を出すことであり、その成果とは、学校事務職員の場合は教育の質を良くするということですので、この時期の方はそれを意識するようにしてください。次に5年目から9年目、この時期が一番大切な時期となります。実務ができるようになった段階で安心せず、業務改善ができるレベルに達する必要があるため、自身の持つ実務領域を拡張させることが大切です。拡張させた実務領域で得た知識を抽象化させることで、別の実践でも使えるようになります。10年目以上の方は、学校全体が見える段階へ入っていくため、戦略マネジメントに取り組む必要があります。そのときのポイントは、毎日のなかでイメージを豊かにし、いかに挑戦するのか、調整するのか、抽象的な枠組みをどう作るのか、ということが重要になると述べられました。



5ステップアップ学校事務職員の成長モデル ～キャリアステージ～



(記念講演資料より)

続いて「学校事務の共同実施の成果を高めるポイント」について、共同学校事務室で成果を出すためにリーダーである室長が存在し、その主な役割として、目標を設定する、進捗を管理する、メンバーの支援を行う、この三つがあります。また、自分より上位の職の支持を調達することも必要になるため、三つの役割に加えて外部との連携が重要になり、連携校の学校長に対して、取り組んでいる内容や成果を周知し、各学校の教育への貢献度をアピールすることも役割の一つであると述べられました。

さらに、共同学校事務室で成果を出すためには、それぞれのグループで文化を作り、皆で学び合う雰囲気を作ることが大切であり、連携校のすべての子どものために何かをしてあげることが我々の役割だというような、責任を共有し合える文化を持つことが必要です。

室長はほかにも、スキルスキャン（室員がどんな能力を持っているのか理解して仕事を割り振ること）を行う必要があります、仕事を割り振る際には、室員それぞれの成長を意識することが大事です。難しすぎる仕事を与えてはいけませんが、現状に甘んじるようなことでも成長が見込めないため、ちょっと無理をすればできる範囲（ストレッチゾーン）を意識して仕事を割り振る必要があると述べられました。



最後に、それぞれの立場からできることを無理せず、しかし少しはストレッチ（背伸び）をして成長すれば、本当の意味で働くことができるのではないかと述べられ、講演を締めくくられました。

アンケート

【研究発表について】

今後の学校事務としてのあり方を考えることができ、時代に合わせて、業務改善を図っていくことが大切であると感じた。 [小学校 1～5 年目]

実践例を混ぜながら具体的・明確な発表内容で自分の職場でも参考にできるものがあり、勉強になった。 [小学校 6～9 年目]

事例等を出していただいて、もっと業務改善を広い視野をもって進めていかなければいけないと思った。 [中学校]

【記念講演について】

年代別でのキャリアステージの話は大変わかりやすく、5 年目になるあと数年の働き方を考える機会になった。 [中学校 1～5 年目]

レベルの高い内容を非常にわかりやすい表現で話してもらい、勉強になった。より実践的な講義も聞きたい。 [小学校 6～10 年目]

自分たちが求められている役割、それぞれのキャリアに応じた身につけるスキルなどとてもわかりやすかった。 [小学校 21 年目～]

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。皆様から頂いたご意見は今後の研究大会の参考にさせていただきます。また、市事研ホームページの「資料掲載」ページに研究大会の資料を掲載しています。（「資料掲載」ページをご覧になるにはユーザー名及びパスワードが必要です。）

第 27 回大阪市立小中学校事務研究大会を会員の皆様とともに無事終えることができました。

研究大会を開催するにあたり、多大なるご支援とご協力を賜りました大阪市教育委員会をはじめ、大阪市立小学校長会及び中学校長会、関係機関や関係団体の皆様方に心より、お礼申し上げます。

令和 5 年度に予定されている共同学校事務室の全市実施をはじめ、大阪市の学校事務職員は大きな変革期を迎えています。本研究大会を通じて、学校事務職員同士のつながりがより一層深まり、これからの大阪市の学校教育の発展へと寄与していくことを祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。

第 27 回大阪市立小中学校事務研究大会
実行委員長 竹口 知秀

実務研修会 開催 「学校徴収金会計事務について」

令和4年1月14日(金)大阪市教育センターにて、学校徴収金会計事務にかかる実務研修会を開催いたします。令和2年度には、概算契約の運用が通知され、令和3年2月には、業務システムの機種更新に伴い事務取扱の変更や、業務マニュアルの更新が行われました。これらの変更点を踏まえ、研修部では、平成28年度と令和2年度に作成した学校徴収金会計にかかる実務研修会資料の内容を整理し、日頃の業務を行うにあたって、現場でよりご活用いただけるよう「チェックリストのように手元に置きたくなる資料」をコンセプトに資料作成に取り組んできました。

予算編成から決算までの年間スケジュールや、それぞれの時期に行う具体的な業務内容、また、その際にどのようなことに気を付けるのか、などを資料に沿って説明いたします。なお、感染症対策のため参加定員を設けていますので、実務研修会に参加をご希望の方はWeb申込 または 参加申込書による事前申込をお願いいたします。年度末に向け、ご多用のなかとは存じますが、多くの方のご参加をお待ちしております。

Webでの申し込みはこちら

URL

<https://forms.gle/e5UXiusfyK6azgcV6>



会長コラム vol.5

みなさんは、市事研ホームページの「資料掲載ページ」をのぞいたことはありますか。ここには、過去の研修会や研究大会の資料など、業務に役立つデータが満載です。ただし、このページにアクセスするにはユーザー名とパスワードが必要で、会費を納入いただいた会員の方にのみ、その年度のユーザー名とパスワードをお知らせしています。

ちなみに、昨年度のパスワードは「ichiyoku270」でした。これは、市事研の昨年度と今年度の研究課題「学校力向上の一翼を担う」からきています。このような単純作業のなかにも、ちょっとした心の余裕のようなものを含ませながらすすめていきたいものですね。

ちなみに今年度のパスワードは…会費を納入いただいた方のみぞ知る。会費納入にご協力をお願いいたします。

ポチポチいきましょう(^ ^)/



他団体日程

- ・第53回全国公立小中学校事務研究大会(埼玉大会) オンライン開催

令和4年1月11日(火)～2月18日(金)

※参加するには、全事研Webの会員ルームにログインするためのID及びパスワードが必要です。ご希望の方は、事務局 普久山(生野区 桃谷中学校 06-6712-0017)までご連絡ください。また、動画はYouTubeでの配信となるため、校園ネットワーク用パソコンからの視聴はできませんので、ご注意ください。

編集後記

2年ぶりに研究大会を開催できたのも束の間、年明けには実務研修会が控えています。年末年始にゆっくり休養し、実務研修会で皆様にお会いできるのを楽しみにしています。(Y)